

令和 8 年度野生復帰に関する検討

環境省

1. 背景

オガサワラカワラヒワの野生復帰については、2023 年にオガサワラカワラヒワ野生復帰実施計画（案）を策定し、その概要を検討している。

オガサワラカワラヒワ生息域外ワーキンググループ（2025.1）では、短期目標として 5 年以内の試験放鳥開始、長期的な目標としては 10 年以内に年間 5 羽の放鳥可能な個体数の飼育を掲げている。現在、オガサワラカワラヒワの域外における繁殖が 3 施設で成功しており、試験放鳥の実施に向けて、検討を具体化する必要がある。

2. 放鳥計画検討（R8 年度～実施）

放鳥の流れは、

- ・ 前期馴化
- ・ 検疫
- ・ 対象地（の選定）
- ・ 後期馴化～放鳥

と設定されている。これらについて、R8 年度は具体的な検討を行う。

【前期馴化】

前期馴化については、オガサワラカワラヒワ生息域外飼育繁殖計画（案）に示す様に、飼育環境を生息域内の環境に近づける、孵化した個体は親個体もしくは仮親に育てさせる等、前期馴化として飼育個体に野生復帰させ得る資質を獲得させるため、野生下の環境に近い形で飼育を行う。

現状の飼育施設において、より改善できるアイデア、情報等は随時確認し、飼育計画に反映する。

【検疫】

検疫については、将来的に内地での繁殖個体を自然環境下に放鳥することを考慮し、必要な検疫項目等を情報収集、整理する。

【対象地の検討】

対象地については、野生復帰計画では母島列島としているが、より具体的な実施箇所を検討する。現時点ではネズミ対策の進んでいる平島等も考えられるが、放鳥試験の容易さ、モニタリングの確実さ等から、オガサワラカワラヒワの渡来箇所でもある母島南端の南崎を最初の試験放鳥地として想定し、具体的な放鳥試験内容やネコ対策の必要性等を検討したい。

【後期馴化～放鳥】

後期馴化から放鳥にかけて、野生復帰計画では、本種の放鳥に必要な技術は未知であるものの、「放鳥個体が自由に出入りできる仮設ケージを放鳥地点に設置し、一定期間周辺環境に馴化させた後、仮設ケージの出入り口を開放して個体が自発的に外に出られるようにする。」ことを想定している。放鳥個体の生存率を向上させるためには試行錯誤の必要があると考えられることから、ソフトリリース用のケージについては、その構造、必要な機能（ネズミ対策、周辺を含む餌の設置等）等について他事例等の情報を

収集し、検討する。条件を検討次第、ケージの設計や具体的な作業計画の策定等を実施する。その後、放鳥用の個体の条件（飼育箇所のキャパシティ等も含め検討）が揃い次第、試験放鳥を実施する。

また、モニタリングの内容等についても合わせて検討する。

参考表 他種における取組の概要

種名・学名	順化	放鳥前の検疫	放鳥手法
マングローブフィンチ <i>Camarhynchus heliobates</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期順化：鳴き声の録音を流す、給餌方法の工夫 ・後期順化：給餌方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育時は、自然の素材を使用せず、ダンボールや新聞紙を活用した 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育ケージからのソフトリリース
キタジマコヒタキ <i>Petroica longipes</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・記載なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・移送箱からのハードリリース
ニュージーランドヒタキ <i>Petroica macrocephala</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥場所で2～4日間、飼育された事例があるが、本種について、放鳥場所で飼育すべきか否かは明らかになっていない ・実施していない事例もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲後に健康状態を確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・移送箱からのハードリリース ・一部の事例ではソフトリリース
モフアムシクイ <i>Mohoua albicilla</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲後に健康状態を確認 ・飼育時に体重が著しく減少した場合は移送しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・移送箱からのハードリリース
モーリシャスベニノジコ <i>Foudia rubra</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥地の飼育ゲージで実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥地への移送前に駆虫剤（0.035mlの2.5%バナクール溶液）を使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育ケージからのソフトリリース